

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103768		
法人名	(株)グレースホーム		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県岐阜市粟野西6丁目117-2		
自己評価作成日	令和2年11月2日	評価結果市町村受理日	令和3年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/ri/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;kyosyoCd=2190103768-00&amp;SerViCd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/ri/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;kyosyoCd=2190103768-00&amp;SerViCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年4月に全施設老朽化の為、移転致しました。木造平屋建ての建物になり、室内、居室は木のぬくもりが感じられ落ち着いた空間となっております。又ウッドデッキのオープンテラスで、天気の良い日などに、日光浴をしたり、食事やティータイムを入居者様と職員で楽しんでいます。入居者様の残存能力に合わせて、レクリエーション活動や野菜作り、洗濯や掃除等を職員と一緒にしています。1ユニット9名定員と規模は小さいですが、その分利用者様ひとり一人に手厚い介護が提供でき、ひとつの家族のように毎日楽しく生活しております。また、当施設では本人ご家族様の意向を大切にしながら、住み慣れた場所で穏やかに人生の最期を迎えられるよう、ご家族様、主治医、訪問看護師、職員と協力しながら看取りまで対応させていただくように、取り組んでいます。今年も新型コロナウイルス感染症が流行し、地域の方々との交流ができていないですが、徐々に交流を深め地域に根ざしたグループホームを築いていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年の移転を期に理念を新しく、「家族や地域とのつながりを大切にします。笑顔で楽しく過ごせる生活を提供します。出来ることを見守り支援します」とした。事業所名のか、え、で、を頭音にして、理念が理解し易いように工夫し、日々の介護に活かしている。木製で手作りの玄関の看板が民家風で親しみやすい。廊下に巾木状の照明を設けていて足もとが明るい。居室にある花形のフェルト布に水を含ませた置物は温度調節も兼ねている。利用者と家族の希望により事業所での看取りが可能であり、終末期もやすらかに過ごすことができている。職員は、日常的に管理者と話し合っており、明るく利用者に接し、やりがいを持って楽しく介護の仕事を行なっている。利用者一人ひとりを理解し、その立場にたって、利用者が快適に過ごせるように支援をしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作りましたが、これからさらに職員間で共有し深めていきます。	理念は管理者を中心にして他の職員も協力して作成された。平易な言葉による文章で頭に入りやすく内容が具体的である。玄関の誰もが見やすい所に掲示している。理念に基づいた介護による支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月に移転開所したばかりの為地域の付き合いは、まだまだ浅いですが、今後地域の交流を深めていきます	地域とのつきあいと協力の理解を得られるように、事業所の移転前に地域住民への説明会を開催した。自治会に加入して地域活動に参加している。移転後、間もないこととコロナ禍のため、地域交流は十分ではない。	新型コロナウイルス感染の収束以降に、地域とのつきあい、及び各種行事への相互参加など、地域との交流をより活発に実践されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所前に地域住民に対し説明会を行った際に、認知症についての説明や協力依頼を行いました。まだまだ事業所として日が浅いので、周知されていない為、少しずつ地域の方々々に馴染めるように努めます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、現在運営推進会議は、開催できていないですが、各関係の方へ郵送、FAXにて事業所の取り組みや近況報告をし、意見を頂き、サービス向上に取り組んでいます。	二か月ごとに市職員及び包括職員、自治会長、家族代表で開催していた。コロナ禍の現在は、書面にて利用者への取組み及びコロナ対策、行事の情報を送信している。意見や質問が返信され、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や訪問し、分からない事などを相談し、助言を受けながら協力関係を築くようしています。	コロナ対策支援金やPCR検査等の情報を市の職員から貰っている。移転前の場所とは災害対策が異なるとの指摘を市の職員から受け、地震や大雨による災害時の非常事態対策の書類作成の助言も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の業務時に、身体拘束について話し合いをし、どのようなことが拘束になるか常に考えながら介護にあたります	車椅子をテーブルに固定すること、及びベッドの四点柵、言葉による拘束をしない介助をミーティングなどで話し合っている。外部講師による勉強会も行った。慣れると言葉による拘束が起き易くなり注意が必要、との指摘があり念頭に入れて介護をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護に関する研修に参加し、学んだことをミーティング時に課題として取り上げ、日々の業務を振り返り、虐待防止に日頃から努めています。		

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいませんが身寄りのない方は、岐阜市社会福祉協議会の日常自立支援制度や後見人制度を活用しながら支援できるよう体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族と十分話し合いをし、理解、納得して頂き、契約を締結しています。ホームページを参照してもらったり、実際に施設内を見て頂き、入所後のイメージがしやすい工夫もしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族から苦情が出たとき、ミーティングで話し合いをし、管理者が、運営推進会議で発表し、相談、助言を受け運営に、反映させています。	新築時に廊下の照明の提案が家族などからあり足もとの照明を取り入れた。新事業所の風景や行事の様子をホームページに掲載している。ノンアルコールや喫煙について利用者と家族の意見を確認、実行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に、意見交換や提案を聞いたり、個別に意見を聞き運営に反映できるように、取り組んでいます。	管理者は介護の実務も行っており、職員の意見が聞きやすく業務や有給休暇の意見や要望を反映させている。介護記録が内容ごとであったものを利用者ごとに改編して、一人ひとりの状態が把握し易くなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状態や努力を評価し、給与の見直しや賞与に反映できるよう努めています。職員数に余裕がない時でも、少しでも職員の負担を考慮し勤務時間を見直したり、他部所の職員が現場に入り協力しながら業務を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に、外部から講師を招き内部講習会を行ったり、外部研修に参加し、職員がスキルアップできるよう、これからも取り組んでいきたいと思えます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染防止の為、相互訪問や、交流する事が出来ないのが現状です。		

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人の不安なことや本人の困りごとを傾聴し、本人に寄り添い安心できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて家族との面談を重ね、家族の思いを傾聴、共感したり、生活の様子を写真等で見ていただいたり、利用者の様子を報告するなどし、安心していただけるよう又信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを行い、本人や家族の方がどのような支援が必要かを見極め、提案し話し合いをし他のサービスも検討しながら対応しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の能力を把握し、洗濯や食器拭き、掃除などを職員と共にやり協力し支え合える関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設任せにならないように、定期的に現在の様子を見に来て頂いたり、本人が不安な時などには、家族に電話をかけた話をしてもらうなどして、本人を共に支え合える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人など大切な方との関係が途切れないよう、面会に来て頂いたり、絵手紙を書いて送ったり、定期的に自宅に戻り家族と過ごしていただいたり関係が途切れないよう支援しています。	家族との外食や正月の外泊の支援をしていたが、コロナ禍で外出が難しくなった。家族とは窓越しの面会である。馴染みの関係が途切れないように、絵手紙や年賀状で友人や家族との通信の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者同士の関係性を把握し、気分の乗らない方には仲の良い利用者と一緒に声をかけてみるなど、入居者同士が助け合い励まし合いながら生活できるよう支援しています。		

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了すると、本人、家族と疎遠になっているのが現状です 契約終了後も必要に応じて相談援助ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に話を聞く機会を設け、本人の希望や意向を聞き、可能な限り支援できるよう努めています。	悩みがないか、と管理者は利用者によく聞いている。利用者には、外出や外食をしたい、家が心配だ、との思いがあり、それを真摯に聴いている。食後はひとりになりたい、との利用者もあり大切に見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	飲酒(ノンアルコール)誕生日会や日常の食事等で希望を聞き、それに応えられるよう支援しています。必要に応じ個別での対応も検討しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや入浴時の全身観察などを行い、入居者の気分や体調に合わせて無理なく過ごせるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、管理者、ケアマネ、職員、本人、家族と話し合いをし、気付き、アイデアを反映し現状に合わせた介護計画を作成している	管理者と計画作成担当者、職員で話し合いをしてモニタリングを行ない、利用者と家族、医師にも相談して介護計画を作成している。介護記録表に長期と短期の目標を記載して、介護の課題を出し易くしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や職員の意見を基に、管理者、ケアマネと話し合いをし、利用者の状態に合わせて、ケアプランの作成をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、家族、本人と話し合いをし、訪問看護や訪問診療等のサービスを利用しながら支援しています。		

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、新型コロナウイルスの影響により実践できていませんが、施設の周辺を散歩したり、今後地域の行事への参加、ドライブや喫茶店、買い物等の外出も検討していきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医の選定をいただいています。当施設の協力医では、24時間対応にて急変時にも迅速に対応し入居者が安心できるよう支援しています。	利用者と家族に協力医の体制を説明して希望があれば協力医に変更している。月に2回の訪問診療がありその記録表にて状態をわかりやすくしている。訪問看護師とも連携していて緊急時に24時間の対応ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と提供し、定期的に往診を受け、入居者の健康状態を共有しています。又体調不良時や医療面での不安があれば直ぐに報告、相談し必要に応じ往診してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを活用し、日々の様子を細かく説明し、定期的に本人の様子を見に行き、担当看護師から、現在の様子を聞いてます。退院後の対応の仕方などを話し合いながら医療機関との関係を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人、家族と話し合い意思や意向を尊重しながら終末期の方針を決めています 主治医、訪問看護師、職員、家族で協力しながら、可能な限り住み慣れた施設でその人らしい最期を迎えられるよう取り組んでいます。	契約時に事業所の方針を説明している。重度化に向け利用者と家族に最期をどこで過ごしたいかを尋ねている。終末期は家族、医師と話し合い、事業所での看取りを含め、方針を決めている。職員は穏やかに最期を迎えられるように利用者の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルは置いていますが訓練は行っていないのが現状です。しかしミーティング等で事例検討し対応の方法を話し合ったり、セコムと連動し、夜間等の急変時にも迅速な対応できるよう体勢を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだ新しい施設に移動したばかりなので不安や不明確な部分はありますが、避難訓練を実施をし地域の中で助け合いながら訓練できるよう関係づくりを行っていきたく思います。災害用品備蓄確保しています。	消防署の立会いで避難訓練を実施している。4月には夜間想定での避難訓練を実施する。地域住民の参加は、コロナの感染状況に注意しながら算段をしている。乾パン、水、ポータブルトイレを備蓄している。	

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や人柄を把握し、接し方等に十分配慮し、対応しています。入浴は、一人の職員が着脱から入浴まで全てを対応するなどプライバシーに配慮し本人の希望も取り入れながら対応しています。	利用者に合わせた会話と尊重する言葉づかいを心掛けている。トイレへの声掛けは他の利用者に気づかれないようにしている。呼び方は本人の希望を聞いている。入浴後の着衣は本人に確認してそれを手伝っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をしっかりと聞き取ったり、コミュニケーションが困難な方は、その人表情や仕草などの様子に応じて思いをくみ取り、日常生活の支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設という場では全てが本人の意向に沿う事は難しいですが、可能な限り起床や食事の時間を変えたりレクリエーションや体操など、一人ひとりの希望やペースに合わせて、無理なく生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味や拘りを大切に、マニキュアや化粧、洋服などおしゃれを楽しんでいただきその人らしさを活かせるよう支援しています。希望があれば、家族と地域の美容室にてパーマをあてられる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のリクエストを聞いたり、旬の食材を使い工夫しています。テラスでの食事、おやつなど楽しんでいただけるようにしています。個々にあわせた食事形態で提供し美味しく安全に食事ができるよう支援しています。	献立は利用者の希望と食材の有無を確認してその日に決めている。テラスでの食事もある。土曜日には晩酌でノンアルコールや梅酒を、クリスマスには宅配の釜めしなどを、雛祭にはひし形ケーキを利用者と職員と一緒に作ったり、楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量食事量をチェックし水分摂取が困難な方にはエンシュアの利用やアイス状にしたりと形態を変え必要な栄養が摂れるよう工夫しています。美味しく安全に食事を食べていただけるよう個々に合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに対しどのようなことに気を付けながらケアを行ったら良いかを職員間で情報を共有し対応しています。		

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿記録を付け、個々の一日の排尿パターンを把握しています。トイレ誘導し残存機能を活かして活用できる限りオムツを使用しないよう支援しています。常に職員間で排泄介助について話し合い対応を検討しています。	おむつを使用しないで済むための改善策を職員で話し合っている。トイレでの排泄ができるようになった利用者もいる。声掛けの必要な利用者にはその人の動きで判断したり、時間を見計らったりして誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、乳製品や食物繊維なものを提供したり体操したりと自然に排便が出来るように工夫しています。便秘の方には医師、看護師と相談し本人にあった薬をタイミング図りながら排便できるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと気分よく入浴できるよう支援しています。回数も限定せず本人の希望や体調に応じ入る回数、時間、シャワー浴清拭含め臨機応変に対応しています。毎日入浴される方もいます。	浴室の入口に『ゆ』の暖簾が掛けてあり、入浴剤を入れるなどして利用者は温泉の気分を味わっている。毎日の入浴希望もあり、元旦に入浴する利用者もいる。入浴順は日によって変えるなど、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使用していたものなど、本人が使い慣れた寝具を使用していただき居室内の温度や寝具類の調整を行い、快適に睡眠摂れるよう支援し起床就寝など、本人の体調に合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有し、副作用や異変に注意を払い、往診時に、主治医に様子や状態を説明し薬の追加や減薬、中止の指示を受け対応しています。嚥下が悪い方には粉薬に変更するなど個々に合わせた服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を感じられるようなレクリエーションや行事を行い、野菜作り等を行い、その人の経験を活かしながら日々の生活に一人ひとりの得意なことを取り入れ張り合いや喜びを感じられるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力で自宅に帰られたり、外食やお墓参りに出かけられる方も見えます。現在は、コロナウイルスの影響で実施できていませんが、施設での外出行事も増やしていきたいです。	コロナ禍で外出が難しい中でも、ごく近所の雑貨屋へ買物に行ったり、数人で事業所のまわりを散歩したりしている。また、テラスで食事をして外食気分を味わっている。プランターで野菜作りをして、収穫時には季節を感じることができるように支援をしている。	

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を管理することが困難なため家族からお金を預り可能な方は、買い物行かれた時本人にお金を渡し支払いをいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話などはされませんが、職員の援助により家族や友人に電話をかけたり、絵手紙や年賀状を作成し家族や友人へ送れるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬり絵などの作品やレクリエーションの写真や作品なども飾るなど明るい雰囲気になるよう工夫していきたいと思えます。テラスで過ごしていただいたり窓を開放するなどして利用者の生活しやすい空間作りに努めています。	ホールに四季折々の花を飾っていて、季節感を味わうことができている。生活歴に合わせて昭和レトロの雰囲気の看板やレコードジャケットをディスプレイしている。かき初めの書やぬり絵、季節行事の写真を展示し、利用者の思い出づくりを支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、リビングルームの席の配列を考慮しています。利用者一人ひとりの気分や体調に合わせてソファ、居室、リビング、テラスなど、好きな場所でくつろげるよう工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し落ち着いて暮らせるよう馴染みの物や写真、使い慣れた物を居室に置き、居心地の良く暮らせるよう工夫しています。	各居室に手作りの木製の表札を掲げ、照明には和紙製のものを使用し、カーテンは緑色のもので和風の雰囲気を醸し出している。壁沿いに木製の長い衣装箱を置き、来客者が座れるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内・外にカメラを設置し常に職員が見守れるようにしています。利用者の思いも尊重しつつ介護度に合わせ個々に居室の場所や居室内の配置を工夫し安全に生活出来るように対応しています。		